

津波対策の検討の考え方のフロー

ハード対策

ハードは金と時間がかかる

【弱いところを知る】

ハードの現有性能の評価

【対策を知る】

ハード投資の緊急度の明確化
(防護上の弱点や優先順位等)

【対策をとる】

ハードの
着実な整備

既設のハードを前提に被害を最
小化(即効性のある対策)

既設の緊急補強
・補修

避難路・情報伝達
施設等の整備

ソフト対策

スタート

【災害を知る】

観測体制の強化等

・災害はいつ起きるかわからない
・想定を上回る外力も発生

地域の災害危険度の評価

地域住民への災害危険度の周知と自衛意識の向上
(ハザードマップ・防災地図の提供等による危険度情報と避難情報
の事前提供)

直前の自衛策の実施(危険物の排除など)

津波
発生

【知らせる】

危険度情報の
直前・同時提供

【避難する】

適切な避難(自衛)
(財産は守れないが人命は
守る)直前の減災対策

発災

【被害情報を知る・知らせる】

被害情報を迅速に収集し、事後
対策を計画する

被害情報を提供し、自衛措置等
により、二次被害の減災を図る。

【事後対策をとる】

応急
対策

本格
復旧

【事前対策の考え方】

適切なハード投資により絶対的な災害危険度を低減しつつ、「危険度
情報の共有等のソフト施策による住民の自衛」を通じて「被害の最小
化」を図る。

【あらかじめ事後対策の準備をしておく】

【準備】 緊急復旧・本格復旧が迅速に行われるよう予めハード(機材、
場所)、ソフト(マニュアル、組織体制、役割分担等)の準備
を行っておく。

予
防